学びたいことを学びたい方法で、アクティブに体験できる「BAL Studio」。

東京都
文京学院大学女子中学校 高等学校
Bunkyo Gakuin University Girls' Junior & Senior High School

文京学院大学女子中学校・高等学校は創立87年の女子中高一貫校で、理念は「自立と共生」である。教育システム「文京スタンダード」をベースに、国際的に活躍できる人材育成のための「国際塾」、体験を通じて科学を学ぶ「科学塾」、能動的な学びを重視した「アクティブ・ラーニング」などに取り組んでいる。2011年に新設された「文京アクティブ・ラーニング・スタジオBAL Studio」を中心に、学習環境づくりに対する新たな考え方や授業の様子など、独自の活動を紹介する。

NEW TREND

新たな学習の場「アクティブ・ラーニング・スタジオ」とは？

「アクティブ・ラーニング・スタジオ」は、能動的な学びを行う場である。複雑な問題が多い現代では、自ら問題を発見し解決していく能動的な力が必要とされる。情報を整理して真の問題を見つけ出し、他者と協同して答えを導き出しながら、柔軟な発想で解明していくには、「アクティブ・ラーニング・スタジオ」で培われる学びの基礎力が役に立つ。

新しい学びは、東京大学駒場キャンパスにおいて2007年に開設したアクティブラーニングスタジオ「KALS」など、様々な大学で行われているが、今は中学校や高等学校においても注目され始めている。また、生徒たちは携帯電話やパソコンが身近なデジタル・ネイティブ世代であり、彼らの資質に対応できる学習プログラムや環境が、これからは必要になってくると考えられる。

BAL Studio：様々な機能を備えたオープンな空間。

INTERVIEW 1

文京学院大学女子高等学校 副校長
国際教育センター長
雨宮 正典氏

共生社会で自ら表現できる人材育成にアクティブ・ラーニングは最適。

本校は、女性の「自立と共生」という理念のもとで教育をしております。自立した社会人としてのベースをつくること、環境や育ち方の異なる人々がいる社会の中で共に生きていける人材に育てることが目標です。共に生きる社会を考える「共生社会研究」を高校1年で実施し、テーマを設けて考え発表し合うという学習を続けてきました。本校は受験のために偏差値を上げることを指導の1番の目標としている学校ではありませんし、まだ方向がはっきりと定まらない中・高校生に、様々な学びを提供して可能性を広げたいと考えています。

課外活動として実施している「国際塾」では、国際的な視野を身に付けることを目指しており、自分で考え自己表現をするために英語の力を付けることを大切にしています。また「科学塾」では、驚きと疑問の視点を持ち、仮説検証型で能動的な学びを重視します。もともと本校では、「自ら考えて表現し、お互いに発表し合う」ことを大切にしてきました。そのせいか、生徒たちは表現や発表をすることが得意で、学外からも高い評価をいただいております。

こうした表現力を養う学習を、広い空間を使い自由な発想で行いたいと考えていました。また本校は、中・高一貫教育のあり方や教育環境を見直すために「2011文京未来構想プロジェクト」に取り組み、「新しい学び」を模索していました。そうした時期に出会った教育環境が、アクティブ・ラーニング・スタジオでした。

旧施設を生かして広い空間を創出し自由に使える場づくりを。

アクティブ・ラーニング・スタジオ「BAL Studio」は、自由な使い方ができるように、広い空間を区切らないで使おうと決めていました。様々な組み合わせができる家具を選び、パーティションを兼ねるホワイトボードをたくさん用意しました。床はアクセスフロアにしていますが、パソコンを使うこと自体が主目的ではありません。パワーポイントを使って発表するなど、スキルの活用をねらっています。ホワイトボードについては、東京大学の福武ホールの「ラーニングスタジオ」を見学した折りに、活用事例の話を聞いてなるほどと思い採用しました。

BAL Studioは、以前は中学校舎だった建物を高校3年生用に「進学棟」としてリニューアルし、その食堂施設フロアを改装したものです。室内の造りを生かし、プロジェクターや天井吊りモニターもそのまま活用しています。また厨房がありますから、勉学の合間にリラックスできるカフェコーナーや、個別の自習スペースも設置しました。アクティブ・ラーニングのスペースと、カフェコーナーおよび自習スペースは、壁ではなく本棚で仕切っています。

BAL Studioは進学棟にありますが、中学1年から高校3年までのすべての生徒が使います。能動的な学習の可能性を引き出せるようなプログラムをいろいろ用意していきたいですね。

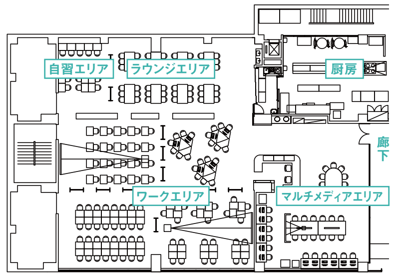
廊下から見たBAL Studio：ガラス張りでスタジオ内がよく見え、生徒や教師が入りやすい。

自習エリア／自習テーブル：TD-10、イス：デューン

マルチメディアエリア／PCテーブル：特注品・MT-30、イス：デューン

INTERVIEW 2

文京学院大学女子高等学校 教頭
科学教育センター長・科学塾長
棚橋 信雄氏



BAL Studio 平面図　S=1:700

「BAL Studio」の開設を決断させた生徒の能動的な学び体験。

2年ほど前に出席したリメディアル教育※に関する学会では、高校生が受験一辺倒で大学へ入学してくるので、大学初年度で必要とされる問題発見・解決型の力が十分身についておらず、補習教育をせざるをえない現状が話題となりました。この問題を解決するために考案された学習の場が、アクティブ・ラーニング・スタジオです。

アクティブ・ラーニング・スタジオの導入にあたっては、東京大学の駒場キャンパスの「KALS」と本郷キャンパスの福武ホールを見学し参考にしました。そこで行われた「先端技術講座 ソーシャル・メディア・ラーニング」に理数クラスの生徒を参加させ、iPadやツイッターを使った試みに挑戦させました。生徒が興味を持ち変わっていくのを目の当たりにして、本校でも導入する価値があると納得したのです。

アクティブ・ラーニングという学習法は、教師が一方的に教える授業に比べて、学習内容の定着率がいいと言われています。また、単独で行うより年間カリキュラムの中へ組み込んでいく方が効果的です。本校では、アクティブ・ラーニングをできるだけ早く生徒へ定着させて、学習のモチベーションアップを図ろうと考えています。

※リメディアル教育：大学初年度における基礎学力の補習教育。

考えコメントして発表し合う独自の活動に欠かせない「BAL Studio」。

BAL Studioは、「共生社会研究」や「科学塾」、そして総合学習や授業の調べ学習などに使われています。「科学塾」で大事にしているのは、体験して驚きと疑問を持ち、なぜかを考えて検証し、新たな発見をすることです。また生徒は、「ラーニング・バイ・ティーチング」という体験もします。これは、科学教室での実験をあらかじめ教員や研究者から学び、小・中学生に分かり易く教えることによって、生徒自らの学びを振り返るという効果的な学習方法です。このプロセスを通して科学のおもしろさを実感し、こどもたちの笑顔によってより深く学ぼうという意欲が育ちます。このような振り返りや自身の確認を必ずプログラムの中に採り入れています。

アクティブ・ラーニングでは、発表や話し合いのために学習の記録を残すことが大切ですが、高校では専任の記録要員は置けません。まず、生徒自らの考えを手書きで記録することを基本としました。書き込む道具は、ホワイトボード、メモやカードなどいろいろあります。衝立型ホワイトボードのように、他グループのコメントが一度に見えて様々な考え方が分かるツールは、グループ学習には欠かせません。また、生徒たちのメモが読みやすいのは、伝統教育でペン習字を日頃から行っているからです。手書きというローテクな方法も高校教育には必要なのかもしれませんね。

こうした能動的なグループ学習を実践するには、空間の自由度が高いBAL Studioが最適だと考えています。

ワークエリア／キャスター付テーブル：DT-15、イス：デューン

REPORT

文京学院大学女子高等学校　教諭
国語科主任 広報部
早乙女（そうとめ） 陽子氏

「BAL Studio」の授業では生徒が主役。

BAL Studioの参観授業は、高校1年藤組（特進クラス）の総合学習。入学してからの1年間を振り返り、“新入生へ伝えたいこと”をカードにまとめていく授業であった。参観後に、授業のねらいやBAL Studioの活用実態について、授業担当教師の早乙女先生からお話しをうかがった。

―今日の授業のねらいはなんでしょうか?

先ほどの総合学習で実施したことは、当初の年間計画には入れていませんでした。数日前のLHR（ロングホームルーム）で、「入学当初は分からないことだらけだった」「前期は部活と勉強の両立に苦戦した」「1年たって自分の学習スタイルができてきた」という話が生徒から出ました。試行錯誤を重ね、たくさんの失敗の中から自分なりの方法を作り上げていった1年でしたが、それを新入生に引き継いでみたらどうかと思い、生徒たちに提案してみました。HR担当の生徒と相談し、掲示できる形でメッセージを残そうということになったので、カード制作を行いました。

BAL Studioで授業を行う場合、基本的に座席は自由で、グループワークにするか個人で作業するかも生徒は自分で決めます。誰かと相談して考えを練り上げていく場合もあるし、自分で考えを深め、頭を整理して表現していく場合もあります。今回の授業では、自分の成功・失敗体験から得た教訓をどのように表現して後輩に伝えていくか、この作業が最も重要でした。完成したカードは1枚の大きな紙にまとめ、新入生に渡しに行く予定です。

―BAL Studioの活用についてはどうお考えですか?

ここを利用する授業では、極力、教員からの指示を減らして、生徒自身に考えさせるようにし、生徒の自己発見を大切にしていきます。生徒のアイデアによって実現した授業も多くあります。構えずに実践を積み重ねていくことが重要だと思います。

早乙女先生が担当した総合学習の授業。

衝立型ホワイトボードを駆使。

“新入生へ伝えたいこと”をカードにまとめる。